



世界剣道選手権大会を陰で支えた 全日本武道具、日本剣道具製作所

川辺尚彦

株式会社全日本武道具
株式会社日本剣道具製作所 代表取締役社長
株式会社全日本武道具、株式会社日本剣道具製作所から第16回世界剣道選手権大会において男女団体優勝チームおよび男女個人優勝、第二位、第三位の副賞として剣道具各22組が贈られた。両者の代表取締役社長をとめる川辺尚彦氏が世界大会に対する思い、剣道具に対する思いを伝える。

きっかけはイタリア世界大会
剣道具を通して世界普及をしたい

第16回世界剣道選手権大会の男女個人戦、男子ベスト4入賞者4名のうち3選手が全日本武道具、日本剣道具製作所の剣道具を使用していた。

「我々、全日本武道具が造る『ALL JAPAN PITCH』、日本剣道具製作所が造る『日本製』、この両ブランドを世界大会の晴れ舞台で使っていただくことは造り人、売り人にとって最高の喜びです。なにより嬉しかったのは海外の選手が沢山、大会期間中に弊社のブース、ならびに科学技術館をお借りしての臨時売店にたくさん足を運んでいただいたことです」

川辺氏が世界展開を本気で考え、実行に移したのは、前回のイタリア大会がきっかけだった。

「イタリア大会を観戦し、剣道具を通じて剣道を世界に広めたいとの思い、ALL JAPAN BUDOKU（全日本武道具海外営業部）を世界大会イギリス代表の



全日本武道具、日本武道具製作所のブースに多数の選手が訪れた



男女団体優勝および男女個人優勝・第2位・第3位の副賞として剣道具が贈られた。大会終了後、採寸が行われた



世界選手権大会のひな壇に飾られた全日本武道具、日本武道具製作所の剣道具

「今回の世界大会、日本武道館が私たちの造る宝物（防具）でいっぱいになりました。目から涙がこぼれ落ちました。私の時間が止まり、ただ情景を見渡していました。各国の選手が私と顔を合わせるたびに『ありがとう』と言葉をかけてくださいました。私から『ありがとうございます』とお伝えするのが普通です。私は感謝の気持ちでいっぱいになりました」

**各国選手から「ありがとう」
感謝の気持ちでいっぱいになった**

「最高の経験・勉強となりました」

アンディーフィッシャー（海外営業部長）と共に立ち上げました。しかし、最初は海外で販売するシステムがなく四苦八苦しました」

税金の問題、発送の問題、言葉の問題、数々の障壁があった。

「私とフィッシャーで防具を担ぎ、さまざまな国に行かせてもらいましたが、国により生活面、剣道環境、すべてにおいて異なります。アスファルトの床で剣道をしている国、屋外で剣道をしている国など日本では信じられない環境で稽古をしていました。でも、違うことがひとつありました。剣道に取り組む皆さんは日本が大好きで、剣道が本当に好きなことでした。世界各国の剣士と稽古させていただき、友達になることができました。勉強になることが多く、文化も少しずつ学ばせていただきました。私にとって



世界選手権大会前、エクアドルチームが宮崎県西都市にある日本武道具製作所を訪れた

世界大会を観戦して感じたことがある。「まだまだ世界には、剣道具を入手することが難しい国がたくさんあります。そのような国々にも弊社の剣道具を提供で

きるよう今後も努力していきたいです。そして少しでも世界の剣道人のお役にたてますように、世界の剣道人口が増えま



工場では、先人の匠の技術を最大限に活かし新しい技術を常に研究している

います。次回の世界大会という舞台が楽しみです」
世界大会のひな壇に全日本武道具、日本武道具製作所の剣道具が飾られた。
「主管の全日本剣道連盟様には本当に感謝いたします。私は小さい時から熊本で剣道をしています。警視庁の内村良一選手、兵庫県警の網代忠勝

選手と同級生になり、内村選手とは何度か試合をさせて頂いたこともあります。内村選手が全日本選手権で優勝した時、テレビで観戦させて頂きました。内村選手の優勝する姿を見て、私は日本一の武道具店になりたいと思いました。そして今回、私たち全日本武道具、日本剣道具製作所の剣道具が、世界大会という大舞台の中、日本武道館に立たせていただいたことに感謝とお礼申し上げます」

新しい技術を常に研究 日本最大の剣道具工場

「弊社は、世界に流通している日本製防具といわれる防具約80%を製造しています。そして全国の職人の8割以上が集結しています。技術は常に進化させることが必要であり、工場では、先人の匠の技術を最大限に活かして新しい技術を常に研究しています。それができるのが我が社の強みだと考え

ています」

しかしながら日本国内の剣道具製作所は激減している。

「とても残念な現実なのですが、技術継承者が少なくなっています。しかし確信として言えることは日本の武道具製作技術は素晴らしいです。日本に残さなければならぬ匠の技です。我々も製作所を運営するに当たり技術継承の難しさを経験していますが次世代、次々世代に継承できたらと強く思っています。それが武道具業界の発展につながるのではないのでしょうか？我々は剣道界の裏方で。剣道界をいつまでも見守り、少しでも支えにできればと思います」

剣道具は常に進化している。その進化に対応できるのは剣道経験者のスタッフたちだ。

「本社勤務の8割が剣道経験者で、高段者はもちろんのこと、世界大会出場者、全日本学生優勝者、全日本女子選手権入賞、国体、インターハイなどの経験者が在籍しています。本年度は全日本女子実業団大会で準優勝することもできました。剣道具は常に進化しています。造り人と実践人が必要不可欠と考えています。社員（実践者）たちが知恵を出し合い、使いやすいもの、強度が高いもの、最終的には社員がこれを使って稽古がしたい、試合に出たいと思うものを製品化するようになっています。造り人（職人）+実践者（社員）よく問われますが、これが最大の強みです」

進化する剣道具

「ALL JAPAN PITCH」

全日本武道具



従業員が実際に使用 試行錯誤を繰り返す

「日本一と言われるには訳があります。当社従業員は全国大会やインターハイ、国体、世界大会などを経験しております。その従業員が実際に自分たちで使用し、試行錯誤を繰り返すことで、現代に求められる防具を生み出すことができると思っています。」の『ALL JAPAN PITCH』は自社独自に開発しております」

「PITCH」は、ミシンの縫い幅を意味し、面や籠手などの縫い幅を広げることで従来品と比べ柔らかく、体になじみやすい剣道具が出来上がる。

「忘れてはいけないのが職人の技術、材料の選抜、品質です。さらに安全性を考慮しつつ丈夫な芯材を使用して実現した布団の柔らかさとミリ単位で調節される布団の厚さ・幅、そしてチタンとジュラルミンをコーティングして作られる日本製のオリジナル『AJP面金』を使用しています。常に進化を続け止まることなく現代の最先端防具を製作するのが当社の魅力につながるのではないのでしょうか。進化しているからこそ丈夫でなじみやすい防具が開発されていると思います」

世界約30カ国の方が『ALL JAPAN PITCH』を愛用している。

「本当にありがたいことです。これからも世界に愛される、世界に選ばれる防具であり続けるために進んでいきたいと思っています」

認定、伝統的工芸品

「日本製、世界大会使用モデル」

日本剣道具製作所



攻めの剣道具を追求
手刺し同等以上の機械刺し

「世界大会が近づく」と日本代表選手から剣道具製作依頼が多数入ってきました。彼らは『日本代表』として日本武道館に立ちます。日本製の剣道具を使っていただけ何よりも嬉しいことでした」
採寸から材料、デザイン、時が経つのを忘れて打ち合わせを続けた。

「この剣道具の特徴を一言で表現するならば、手刺し同等以上の機械刺しです。わが社は日本で初めてミシン刺しを開発した製作所です。裏方の存在として77年間、日本製ミシン刺し防具を世に送り出しています。この剣道具は、現段階で我が社の技術を精一杯埋め込んだ宝物です。日本代表選手に選ばれることでますます製作に熱が入りました」

とくにこだわったのは芯材と刺し方による手刺し本来の持つしなやかさだった。「攻めの剣道具」を意識した。

「2年ほど前から弊社独自の開発、研究、モニタリングまで一貫して手掛け、より手刺しの感覚に近い糸を開発、刺しの締めを実現しました。これにより『手刺し同等』の剣道具を完成させることができました。我々はこの剣道具を日本で行なわれる世界大会が出発点と考え、その時を待ち望んでいました。77年の歴史の集大成です。世界の晴れ舞台で選手と共に良い成果が出せたということは最高の幸せであり、職人の喜びとなりました」